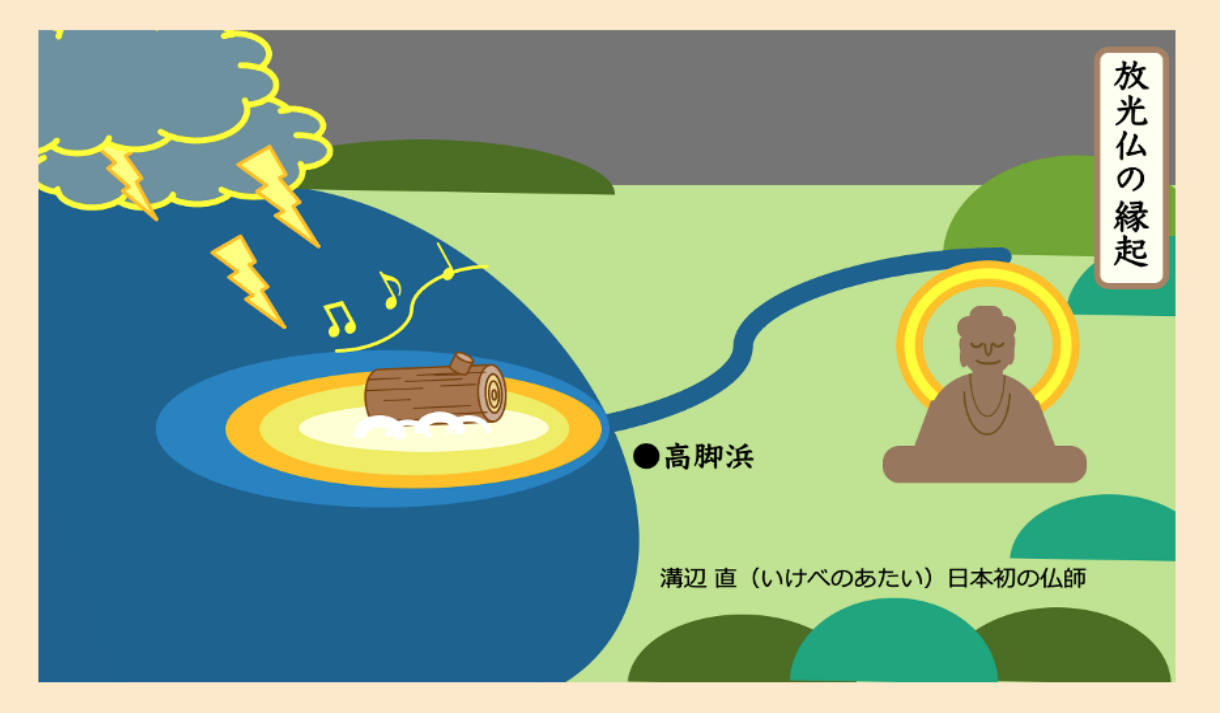
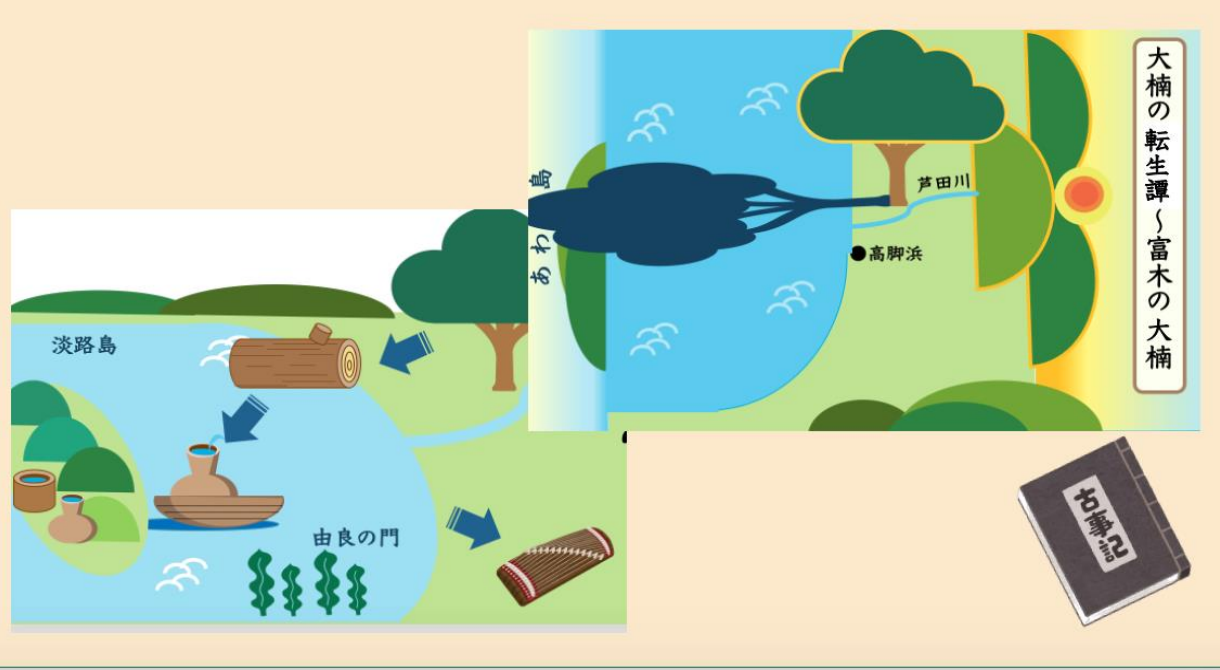


羽衣駅周辺整備基本計画パブリックコメント結果

意見募集期間： 令和6年11月6日から令和6年12月5日
意見の提出者数： 5名

No	ページ番号	ご意見	回答
1	P17	・シンボルツリーについて 上質感があり、浜寺公園とのつながりを想起させるツリーとしては、松が最適ではないか。羽衣通にも街路樹として松がほしい。泉州の人間のコンプレックス感からくるものかもしれないが、阪神芦屋駅を降りるとすぐに川沿いの松が目に入ると、何となく街の上質感を感じる。大阪はたるまちの「蛸の松」を上回るような「天女の松」を植えられないものか。	
2		・西側広場のシンボルツリーについて シンボルツリーの種類については市の木である「松」やイルミネーションが美しくできる「メタセコイヤ」や「モミの木」、花見ができる「桜」などいろいろな木が思い付くが剪定に費用が掛かったり、落葉の処理が必要だったり、と他の樹木も含めメンテナンスが必要となるので駅前広場を美しく保つ方策を考えておく必要が有ると思います。例えばボランティア団体を作るとか。アウトソーシング費用を予算化しておくとか。行政が直接やる？ 木種についてはアンケートのようなものを取るのも「参加意識」を高めていいかもしれない。少なくとも地域の方々の意見は聞いておくべきだと思います。行政が適切に決める？	
3		・高石のシンボルツリーとしての大楠（くす）の物語　ヘシビックプライドの涵養 「シンボルツリー」が、羽衣や高石の象徴であるための樹種は「楠（くす）」が相応しいと考えます。 本立の全てを楠にする必要はありませんが、かつて虫除けの禰頭に使われるほど病気に強い樹種であること、季節を問わない常緑樹であることに加えて、この土地と大楠にあるとても深い縁、多くの人の記憶から忘れられている古くからの縁があります。それは、「古事記」や「日本書紀」に伝えられている富木の大楠の話、また、「日本霊異記」に記されている高師浜に漂着した大楠から日本で初めての木造仏を造ったという説話です。 ・・・仁徳天皇の世、富木川（芦田川）の近くに生えていた大楠に朝日に当たるとその影は淡路嶋まで届いた。その木から造られた船で淡路嶋の清水が天皇に運ばれ、やがて船の役目を終えた楠材から琴が作られた。木造仏を楠から彫塑した話では、高師浜に大楠が流れ着いた際に雷を伴っていたとされ、楠が水（雷）の神として信仰を集めていたことが読み取れます。  戦中に国威発揚のために神話を利用されたこともあって、戦後、地元には伝えられていた大楠の話も神話と共に忘れられました。しかし、そもそも富木の大楠の話は太和政権成立のはるかに前からこの地に根付いていたと神話学的には考えられていること、また、気候変動時代を自然と共に乗り越えるというストーリーとして現代に再発見する価値のある話です。自分たちの街にある埋もれたストーリーを再発見して語り継ぐこと、大楠を育てて将来世代につなぐこと。大きな楠に見守られ、住民が大樹を見守る、そんな豊かな時間のなかで、地域に生活することの誇り、シビックプライドも涵養されることでしょう。	

シンボルツリーについては、種類や管理方法を含め、今後、市民の皆様のご意見を頂戴しながら、検討してまいりたいと考えております。頂いたご意見については、検討の参考とさせていただきます。

羽衣駅周辺整備基本計画パブリックコメント結果

意見募集期間： 令和6年11月6日から令和6年12月5日
意見の提出者数： 5名

No	ページ番号	ご意見	回答
4	P21	整備の方向・イメージ 西側広場は、西日が当たる時間が長く、とりわけ6～9月の期間は、十分な日陰空間がなければ、滞留する人は多くないものと思われる。万博の大屋根リングの一部を移設することは検討できないか。現在のイメージでは高架下がガラスで囲まれていて、西側広場に滲み出す感が出てきていない。住吉公園の汐かけ横丁のようなオープンな空間を高架下にもってこれないものかと思う。	
5		駅前広場（西側）芝生広場（案）についての疑問と提案 （１）「芝生の広場」は本当に必要ですか？ ワークショップの話し合いの中では、駅前広場高石駅前広場との対比の上で、週末のイベントの為に空間を広く確保することよりも、日常的に羽衣駅を通勤や通学で利用している人たちが憩える場所にしたい、という声が多かったと記憶します。イメージ図では、レジャーシートを敷いている親子が描かれています。利用者の多い駅前の決して広くない“広場”でこうした光景を描くのは、現実味が薄いと言わざるを得ません。これに関しては、7月の最終W S時にも声が上がりましたが、5月頃から10月頃までは強い日差しが降り注ぎ、日光を遮るもののない広場では、結局、高石駅前広場と同様に、足早に通り過ぎるだけの空間になると思われます。また、「広場」と言っても、静かで大きな公園ではなく、実際は多くの乗降客が利用する駅前の限られたスペースです。イメージの先行する「広場」という呼称ではなく、「庭」と呼ぶ方が駅前空間の現実に即していますし、日常の中にあって安らぎを提供する場という意味を込められるのではないのでしょうか。 「芝生にレジャーシートを敷く親子」という画餅のイメージは、W Sに参加して想いを巡らせた市民の一人として、あの時間は何だったのだろうか？と落胆を感じるものでした。また、設計者の嗜好が反映された「水盤」や「シェード」の様に、実用性や耐久性について事前に相応の検証が必要な構造物が説明もなくさりげなく盛り込まれていた点も看過できません。地に足の着いた、普段の利用者の視点を持って、長く愛されるような案、「イベント時以外も市民が滞留できる居心地の良さをどう実現するか」というW Sでの合意を実現できる案を採用して頂きたいと切に願います。	
6	P21	（２）「芝生の広場」ではなく「木陰の庭」で居心地のよい滞留空間を 「芝生の広場」では、イベント時以外も市民が滞留できる居心地の良さを実現するのは難しい…となれば、どのような代案があるのか？「地球温暖化」を超える「地球灼熱化」の時代には、公共スペースで子どもや高齢者を直射日光から防ぐことは、現役世代の使命と考えます。この課題を実現できるのは、本当の緑、木陰を提供してくれるような木立です。「木立（こたち）」と書いたのは、W Sの提案で採用された「シンボルツリー」が、一本だけではなく、何本も生い茂ることで、直射日光から子供や高齢者を守るからです。 木立のメリット／デメリット 緑に覆われた木陰の庭の利点は、直射日光を遮るという物理的な側面だけではなく、羽衣駅を日常的に利用する乗降客にとって緑に覆われた安らぎを提供してくれる庭のような場になるという心理的な側面もあります。また、小さな木陰の庭ですが、南海沿線に視野を広げた時、なんばパークスの緑地（パークスガーデン）、グラングリーン大阪とも共鳴し、都市部に緑を増やすグリーンリカバリーという価値観を共有する街として、羽衣（高石市）だけでなく南海・JR沿線の価値向上につながる側面もあります。 デメリットとしては、落ち葉の清掃などの日常的な管理、台風や老化による倒木の危険性があります。清掃や木のメンテナンスは、専門性の高い領域は業者対応が必要ですが、極力、日常的に利用する地域住民によって維持管理することが肝要で（朝夕に羽衣国際大学に通勤する際に使う私も喜んで参加します）、木を皆で見守ることによって愛着も育ち、市民同士の交流の契機にもなります。	暑さ対策、日陰空間については、設計段階で考慮してまいります。 高架下空間についていただいたご意見は南海電気鉄道株式会社と共有させていただき、調整を図ってまいります。 植栽（芝生含む）構造物等のあり方、また、広場全体としての維持管理の方法、活用の方向性などについては、引き続き市民の皆様のご意見を頂戴しながら、ウォークアブルで居心地の良い、より良い駅前広場となるよう検討を進めてまいります。 全4回のワークショップではご参加の皆様から非常に熱量の高い多種多様なご意見を頂戴いただきました。その全てを計画に反映できているわけではございませんが、その議論を元に計画を策定いたします。 頂いたご意見について、検討の参考とさせていただきます。

羽衣駅周辺整備基本計画パブリックコメント結果

意見募集期間： 令和6年11月6日から令和6年12月5日

意見の提出者数： 5名

No	ページ番号	ご意見	回答
7	P25	・現在羽衣駅近くにある子育て支援施設は全く用をなしておらず、ニーズにもこたえていない。北ヤードに、認定保育園、学童、そこにカフェや大学との提携講座が可能な設備を併設し、常時人が集まる空間にしたい。駅近であることは、電車通勤で子どもを預ける市民にとって、最も理想的。多少保育料を高くとっても、この場所を選択する人は多いはず。塾機能を持つ学童保育も併設すれば、教育環境も問題ない。また、ここを拠点にスポーツ少年団等と提携し、夜に集団で移動して練習。練習終了後、保育所まで送ってくれると、保護者もその時間に迎えに行ける。さらに、カフェや国際大の公開講座なども開催場所なども併設すれば、多世代交流の場ともなる。教育熱心で税収増にも結び付く世代が、高石市に流入する動きにつながると考えられる。 アホみたいに医療費無料の梓狹大ばかり他市と競争せず、少々お金が高くても良質で利便性の高い子育て環境を整えるべきである。今後も上質の街を維持していこうとすれば、上質の市民をひきつける施策を展開することだと思う。	北ヤードについては計画本文「第3章 北ヤード及び羽衣通りの整備の方向性」にもあるように、公共性の高い機能誘導と空間整備を行うことを基本方針としますが、その機能や空間の要件については市民ニーズを踏まえたくうえで検討してまいります。 頂いたご意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。
8		北ヤードについて 北ヤードは市が保有する土地であるため市が直接開発又は民間資本を活用して開発できる貴重な（しかも駅近で広い）土地であるので放置せずなるべく早く地域のために有効利用すべきであると思います。現在のベレストリアンデッキと連結できる施設の建築も可能でしょう。本来なら西側に隣接している敷地との話し合いによってその土地をも含めた開発が理想かと思いますが、成し得ないのであれば、羽衣通りから北方向に13区地車置き場横を拡幅し、その幅で北ヤードの東端を北方向に道路用地として利用して北ヤードへのアクセス道路とし、北ヤードには公共性の高い施設を東側の隣接地及び集合住宅跡地には例えば高級高層マンションの建設などの開発を同時的に進めると良いと思います。（希望としては旧宅は文化的財産なので、何らかの施設として保存、活用すべきだと考えます。）	
9	P10、P17、P18	福祉バス、タクシー、送迎車両の停車場について 福祉バスはなるべく自由通路に近い東西どちらかの場所又は北側の羽衣通りの南海高架下に、タクシー乗り場はJR東羽衣駅階段からも見える羽衣駅前通りベレストリアンデッキ下から南海高架下あたりに設定し、送迎車両の停車場はその他の場所であるべく多く（広く）用意するのが良いと思う。尚、自由通路から羽衣通りへは雨に濡れずに行けるようにシェードを設置するなどの工夫をするとう良いと思います。 羽衣通りは都市計画で18m幅に拡幅予定であるが、見直しの必要もあると思うので、無駄に広い歩道にして放置せず拡幅工事が決定するまでの間は上記のように停車場として利用することが現実的だと思う。	福祉バスについては関係課とも協議をしながら、停車場の設置場所を検討してまいります。 その他、タクシー乗り場や送迎車両の停車場については、その実際の台数を把握したうえで必要台数の枠を確保してまいります。また、シェード等については、利用者の利便性や景観の向上につながる箇所への設置について検討してまいります。頂いたご意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。
10	P19、P21	西側広場の水盤について 水盤をシンボルツリーの下に設置すると落ち葉が水面に落ち美観を損ねるし水質も悪くなると思われます。設置位置はシンボルツリーからは少し離れたところが良いと思う。 また、単純な水盤よりも子供たちがより楽しめる噴水付きの水盤にすべきだと思う。 例えば浜寺公園のものやクラングリーンのものや西宮ガーデンズ屋上のものなどが参考になると思うので検討して欲しい。 悪い例としてはイオンモール堺鉄砲町の前庭にある川と浅い池。掃除が行き届かず時には苔が生えて水質も良くは無さそう。単純な水盤はそうなってしまい美観を損ねるだけの様に思います。やるなら是非噴水付きですべきだと思います。（稼働は（土）（日）（祝日）だけでもいいと思う。）	水盤については、P19に記載のとおり、イベント時や夏の土日祝など限られた時間帯に水を張ることを想定しておりますが、その形状や管理方法を含め、今後、市民の皆様のご意見を頂戴しながら、検討してまいりたいと考えております。頂いたご意見については、検討の参考とさせていただきます。
11	P17、P19、P21、P22、P23	羽衣シェード、ベンチ、テーブル、ゴミ箱について 「羽衣シェード」とはつる植物等を伴わない連続したパーゴラ（日除）のイメージかと思いますが、ただ格子状の影を作るだけでなく、格子上面にスモークアクリルを貼る等の構造にして「日よけ＋雨よけ」の機能を持たせたものにすべきだと思います。 ベンチについても「羽衣シェード」とデザインをそろえて「日よけ＋雨除け」付きベンチにすべきだと思います。またベンチにはテーブルを設置してテイクアウトした食品を飲食したり、ノートパソコンを操作したりできるようにするのいいと思います。 また「分別ごみ箱」を各店舗に設置してベンチ周りのゴミ捨てテーブルへの放置をしないように注意喚起して広場をきれいに保つようにするのいいと思います。	羽衣シェード、ベンチ、テーブルについては、利便性や景観性、ランニングコスト等を考慮しながら設計を進めてまいります。 またゴミ箱の設置については、その必要性や維持管理の方法等を踏まえながら、検討してまいります。頂いたご意見については、検討の参考とさせていただきます。
12		第2章駅前広場の羽衣シェード等。 見た目は素敵かもしれませんが、もう少し簡単なものでも良いかと思います（長さも）出来るだけお金をかけず、シンプルに長い目で見て、メンテナンス等に費用が少なくて済むものにしてほしいです。 そして羽衣市民にも羽衣を盛り上げて良くして継続していけるようにはたらきかけるためにも、他市でお金を使わず高石でお金を使う仕組み（得点的なもの）があればいいな、と思います。市民も自分のことだけを考えず、自分の住む町をより良くしていく気持ちになる発信をお願いします。	

羽衣駅周辺整備基本計画パブリックコメント結果

意見募集期間： 令和6年11月6日から令和6年12月5日
意見の提出者数： 5名

No	ページ番号	ご意見	回答
13	P27	羽衣通り 羽衣通りの南海高架から西側（停車場線）は浜寺公園へのプロムナード通り、東側（駅前）は羽衣学園への通学路という性格があるのでそれぞれの目的に合った道路デザインをする必要が有ります。どちらも車よりも人を重視した道にすべきでシェアスペースの手法で車の通行を抑制するデザインの道路設計が良いかと思います。 一方で現在は都市計画道路として幅を南側に9m拡幅する計画になっていますが、この計画は実施されると商店街の南側店舗はほぼ全て無くなってしまふ実現不可能な計画であり、早急に検討（中止や縮小）すべきであろうと考えます。北ヤードとは異なり、住民・事業主・地権者等が関わり合いながら進めるものでずので話し合いの場を行政が事務局となり早急に整える必要が有ります。新たに作るのではなく既にある「まちづくり推進協議会」を拡大活性化するのが良策ではないかと思います。	羽衣通りについては計画本文「第3章 北ヤード及び羽衣通りの整備の方向性（P27）」にもある通り、羽衣駅から浜寺公園に至る通りの整備を検討いたしますが、その手法については、歩車共存道路としての再整備が考えられます。頂いたご意見について、今後の検討の参考とさせていただきます。
14		「羽衣通り」の今後 羽衣通りの拡幅計画（都市計画道路）は羽衣商栄会にとっては駅前広場や北ヤードよりも重大な関心事項です。私はこの道路拡幅計画は広範囲な区画整理事業でもない限り商店街の存続は難しいと考えています。それは高古でも分かるように極めて困難です。 とはいえ、このまま放置することは建築条件に制限がかかるなどこれも商店街（地権者含）にとっては不利益極まりない状態が継続します。もし計画が白紙になったらなっただで建築規制に従って建てた者が不利益をこうむります。先延ばしにすることはどちらの立場の人にとっても不利益を増大し行政はその責任追及されることになるでしょう。 この都市計画道路については早急に決心（中止、拡幅幅の減少、計画通りの早期着工など）が必要と思いますが、いつ結論を出されるつもりなのかご返答いただきたい重要事項です。	
15		自由で柔軟な発想での素晴らしい意見が多いと感じました。 どの項目と限定するわけではありません。 見た目だけにとらわれずに無駄な投資はせず、将来に維持費やメンテナンス費用を極力抑えられるようなことも念頭に置きながら、素晴らしい計画をお願いします。 民間の発想では費用対効果を考えるとできない事も、公的投資としてならばできる事もあると思います。但し、そこには将来の子供たちに負担を掛けないような手法を、知恵を出して考案してください。そこには費用をかけてもと思います。 例えば、高石中央プールのあったところの新しい道沿いに人工的に小川を設置していますが、うまく活用できていないと聞いております。メンテが行き届かず川の清掃状態が悪く結果水が蚊み蚊の発生の一因であったり清掃等の維持費用に莫大な費用が掛かってしまう。また、高石駅前広場の天然芝の様に駐輪スペースが減ったりして駅利用者の利便性を犠牲にして芝生の設置や今後の手入れ費用のかかる仕組みになってしまっている。 羽衣駅周辺では飲食店がないという意見には理解しますが、ただ店舗を増やしただけでは駄目だと思います。例えば、羽衣学園とタイアップして中高生でも利用できるような店舗の仕組みをつくる。地元の人も利用したくなるような仕組みを作る事が必要と考えます。 飲食店が無いという人でも、店があっても週に何日も利用するわけではないので、出店しても稼働率が悪くて立ち行かなくなってしまう無駄な投資になってしまいます。 税収が上がって投資効果の出るような形になる仕組みづくりの考案を並行して取り組まれる事を切に希望いたします。	羽衣駅周辺の整備については維持管理の方法を含め、今後も市民の皆様のご意見を頂戴しながら、検討してまいりたいと考えております。頂いたご意見については、検討の参考とさせていただきます。